



読書の秋 ～目に見えない大切なもの～

副校長 平田あや

校庭の木々が色づき、紅葉が美しい季節になりました。日頃より、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、本校では11月に「読書週間」を設け、読書を奨励しています。学習情報センターの前には、大きな「読書の木」が掲示され、子どもたちが読んだ本が葉っぱとして次々に貼られています。小学部の児童が、中学部図書室探検に出かけたり、逆に中学部生徒が小学部に読み聞かせに来てくれたり、本を通しての小中交流も盛んです。



私は、小学生のころ「星の王子さま」という本が大好きでした。この作品は、1943年にフランス人作家のサン＝テグジュペリにより書かれました。柔らかい文体とファンタジーな世界観にとっても憧れました。そして、作品の中の『大切なことは、目に見えないんだよ。』という言葉が、とても印象に残りました。これは、作中で幾度となく綴られる言葉です。小学生のころは、お金や経歴、数字など表面的なものではなく友情や優しさが「目に見えない大切なもの」ではないかと考えていました。

教育の世界に身を置くようになってから、この「目に見えない大切なもの」を考えると、幼児教育の世界でよく言われる『非認知能力』という言葉の思い浮かべます。『非認知能力』とは、例えば、目標に向かって頑張る力、他の人とうまく関わる力、感情をコントロールする力などです。私たちは「漢字が書ける、計算を速くできる、作文を上手に書ける」といった、目に見えて知的に賢くなったと感じる認知的な能力を重視しがちです。しかし、様々な研究を通して「幼少期に非認知的な能力を身につけておくことが、大人になってからの幸せや経済的な安定につながる。」ということがわかってきました。うまくいかないときに諦めず「どうしてかな」「これがだめなら、あやってみよう」など目標の達成まで頑張る姿勢や我慢する力、感情をコントロールする力は一生残り、大人になって社会で成功する力につながるのだそうです。

それでは、非認知的能力はどうやって身につけるのか。まず、子どもの自発的な部分を大事にすること。させられるのではなく、自分から自発的に夢中になって取り組む中で、やる気、意欲、粘り強さ、探求していく力が身につけていきます。また「頑張ればできる」経験を積み重ねることも大切です。

これからの社会は加速度を増しながら変化し、複雑で予測困難な時代が来るといわれています。このような社会に向け、一人ひとりが未来の担い手となれるよう、この「目に見えない大切なもの」を基盤として、学校教育の中で様々な力を伸ばしていきたいと考えます。

12月に入ると、個人面談が行われます。皆様のご来校をお待ちしております。教科の力とともに、「目に見えない大切な力」の成長ぶりも語り合いたいものです。